

10月29日

沖縄県社会福祉功労賞 受賞



自らの障がいを克服し更生の実をあげ、障がい者に希望を与えるなど障害福祉の向上に多大な貢献をした実績が評価され、大城清さん(西原町身体障害者協会会長)と渡久山勇さん(同協会副会長)が身体障害者自立更生者功労を受賞しました。大城さんは、同じ脳卒中からの回復者を励ますため絵画展を長年実施しており、また渡久山さんは2009年新潟国体の弱視の部40歳以上陸上の部200mで優勝するなど、多年に渡り数々の障害者スポーツ大会で好成績を修めています。上間明町長は「自立更生者功労が授与されるのは初めてとのことで、町としてとても誇りに思います」と2人を讃えました。

10月29日

沖縄森永乳業 ふるさと企業大賞受賞!



沖縄森永乳業株式会社が町役場を訪れ、平成30年度ふるさと企業大賞(総務大臣賞)を受賞したことを報告しました。本賞はふるさと融資を活用し、地域振興に貢献した事業者に贈られています。同社は平成29年に町と包括連携協定を締結し、年間1万人を超える工場見学の受け入れ、町の行事への製品提供、NSBP(西原町ソーシャルビジネスプロジェクト)活動などへの協力を行っており、地域密着企業として親しまれています。知念良明代表取締役社長は「これからもお客様と地域のために頑張っていきたい」と思いを語りました。

10月21日

花ぬカジマヤー みんなでお祝い!



数え97歳の花ぬカジマヤーを迎えた屋良ハルさん(字上原)の祝賀パレードと祝賀会が上原自治会で行われました。パレードは多くの区民に祝福されながら、黄色いオープンカーを先頭に出発し、上原自治会から出身地の中城などを回りました。子ども9名、孫17名、ひ孫17名に恵まれ、屋良さんは「元気の秘訣はたくさん食べること!なんでも好き。カラオケも大好きで「きせんばる」と「湯の町エレジー」を歌う」と笑顔を見せました。爽やかな秋晴れの下、字上原8年ぶりの花ぬかじまやーとなり、区民総出で喜びを分かち合い長寿をあやかりました。

10月12日

大きく育て 人権の花



花を育てることで、命と人権の大切さを学ぼうと、那覇人権擁護委員協議会による人権の花運動が西原中学校で行われました。生徒が人権擁護委員とともに花の苗をプランターに植え付け、同校の比嘉栄真校長は「花を育てることを通して、みなさんの心の中に人権の花を咲かせてほしい」と生徒に語りかけました。プランターは学校内に設置され、人権の花開花式は12月に行われる予定です。



10月26日

戦没者追悼式 平和を想う



日露戦争から第二次世界大戦にかけて犠牲になった御霊の冥福と恒久平和を願う「西原町戦没者追悼式」が、西原の塔で行われました。式には県外、町内外からご遺族や町民、関係者が参列し、戦没者に祈りを捧げ、平和を誓いました。また、6月に行われた「被ばくピアノが奏でる平和の約束」にて参加者に折ってもらった千羽鶴と、幸地婦人会による千羽鶴が奉納されました。最後に平和のメッセージを読んだ古賀華蓮さん(西原東中3年)は、「私たちは戦争を体験してはいないけれど、想像することはできる。争いで悲しむ人がこの世界からいなくなるよう、毎日を精一杯生きていきたい」と平和への思いを宣言しました。

10月20日

プロ野球選手にドキドキ



青少年の健全育成を目的に、西原町少年野球教室(沖縄県遊技業協同組合主催)が東崎公園にて開催されました。講師に元ヤクルトスワローズの投手五十嵐貴章さん、投手花田真人さん、外野手尾敏浩さんを迎え、町内5チーム約100名の児童生徒が参加しました。五十嵐さんは「走る、投げる、打つ、一つ一つの動作を自分で工夫することで、野球をもっと面白くすることができる」と熱く指導し、子どもたちは普段見ることのない元プロ選手に大喜びで、目を輝かせて取り組んでいました。



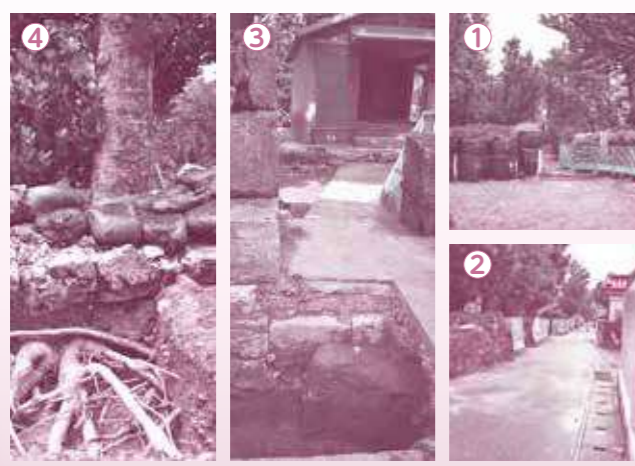
文化財コラム

内間御殿発掘調査速報

内間御殿は、琉球王朝第二尚氏の最初の王である尚円王を祀るために建てられた神殿(東江御殿)を中心とする祭祀施設で、国指定の史跡です。その内間御殿の中心的空間である東江御殿(①)で、今年七月から八月にかけて発掘調査を行いました。今回はその調査の内容について報告します。

発掘調査は、石垣が大きく欠けている西側の一部(②)と、南東側の外壁沿いの一部の地面(③の右側あたり)で実施しました。歴史資料によると、一七三五年に東江御殿の石垣が整備された記録が残っていますが、西側の調査ではその整備されたときの地表面と考えられる土層が、現在のアスファルト舗装の道よりも四〇センチほど低い位置で確認されました(③)。また、西側の地中に埋もれていた石垣は良好に残っているのに対し、地上に出ている石垣については、隙間が空いたり、孕み出しているなど、概ね積み直しをする必要があることがわかりました。

調査の目的は、東江御殿の石垣を復旧・復元していくために、石垣のどの範囲を積み直す必要があるかを把握することです。発掘調査は、石垣が大きく欠けている西側の一部(②)と、南東側の外壁沿いの一部の地面(③の右側あたり)で実施しました。歴史資料によると、一七三五年に東江御殿の石垣が整備された記録が残っていますが、西側の調査ではその整備されたときの地表面と考えられる土層が、現在のアスファルト舗装の道よりも四〇センチほど低い位置で確認されました(③)。また、西側の地中に埋もれていた石垣は良好に残っているのに対し、地上に出ている石垣については、隙間が空いたり、孕み出しているなど、概ね積み直しをする必要があることがわかりました。



お問い合わせ 教育部 文化課 文化財係 ☎九四四-四九九八



イベントフォトギャラリーはこちら▶